

前進座公演

山本周五郎 原作 田島栄 脚色 十島英明 演出

やなぎばしものがたり

柳 鶴 物 語

「待っているわ」そのひと言が

おせんの一生涯をきめた

生きることのきびしさ

愛することのかなしさ

江戸・下町を舞台に

ひたむきに生きる若者たちを

詩情ゆたかに謳いあげる

山本周五郎の

珠玉の作品

待望の再演!!

装飾 佐藤琢人
照明 寺田義雄
音響 越後知子
音楽 栗木健
演出 小野文隆
演出助手 栗木健
効果 栗木健
音響 栗木健

2019年 第311回 旭川市民劇場 11月例会

11月5日(火) 18:30

6日(水) 13:30

会場/旭川市公会堂 上演時間 2時間50分 (定休45分)

本例会は青少年劇場例会です。

中学生・高校生を無料ご招待します。演劇ならではの感動や迫力を感じて下さい。申込・詳細は旭川市民劇場まで。

入会のご案内	
入会金	2,000円
会費(月)	一般 2,500円
	大学生 1,000円
	中高生 500円

会員になると年6回の演劇を鑑賞できます。詳しくは旭川市民劇場まで

次例会のご案内

12月例会 劇団民藝 『集金旅行』

出演 豊田文枝 西川 明ほか

12月12日(土) 18:30
13日(日) 13:30



庄吉
中嶋宏太郎



幸太
渡会元之



おもん
浜名実貴



おせん
今村文美



忠村臣弥



藤井偉策



上滝啓太郎



早瀬栄之丞



横澤寛美



小林祥子



西川かずこ



前園恵子



武井茂



津田忠一



志村智雄



和田優樹



嵐市太郎



有田佳代



間もなく源六が卒中で倒れる。そうしたある日、江戸は大火事に見舞われる。火の手は、おせんと源六の家にも迫ってきて……。

だが、杉田屋の跡取りは幸太に決まり、失意の庄吉は上方へ修行に旅立つ。別れ際、「二人前になって帰るまで待っていてくれ」と、おせんに言い、「待っているわ」と、咄嗟に答えたそのひと言が、おせんの運命を深く左右してゆく。その後、杉田屋からおせんを幸太の嫁にほしいと言ってきたが、杉田屋との過去のいきさつから祖父の源六は断ってしまう。

〈あらすじ〉

江戸茅町にある杉田屋の大工・幸太と庄吉は、どちらも腕も良く人柄もいい。研ぎ職人の源六の孫娘・おせんは、どちらにも近しさと親しさをもっていった。

庶民の生きるための苦しみも悲しみも、喜びも楽しさも、すべてがここにある

柳橋物語

第7巻 山本

感想文（前回の公演より）

●山本周五郎さんが「自分の体験されたことをもとに作品を書かれた」とのこと、舞台にもその様が良く表れていました。

今も昔も市井で暮らす者は、英害と貧困に人生を狂わされ、つらい生活の中に小さな幸せを見つける。この物語に登場するおせん・おもん・幸太・庄吉たちも、それぞれが普通のささやかな幸せを夢見ていたはず……どの人生にも「自分ならどうしただろう」と深く考えさせられるものがある。

●「ひと言」の大切さをあらためて考えさせられた。人間のみが獲得した「言葉」。いつときの心の高ぶりから発したであろう「待っているわ」のひと言で、おせんは自らを縛ってしまった。言葉は人の心を、ほんのひと言で操ることができるということであろう。権二郎は、人のウワサに尾ひれをつけて吹聴し、それを信じた長屋の面々は手の平を返したように、おせんを見下す。一方、林調な語りにもじんわりと情けを感じる。源六のひと言もある。

17才の心もとなない純なおせんは、数々の苦難にみまわれながらも真実にとどり着く。おもんは何不自山の容らしからどん底の生活をしいられても、訪りは捨てず気持ちは明るく振る舞う。助けあう二人の姿になぜかシーンとさせられた。